



カレブ通信

2011 年 6 月 15 日
第 6 号

この号の内容

- 1 カレブの会の報告と予定
- 2 祈りの課題
- 3 カレブ ストーリー 1
- 4 カレブ ストーリー 2

どうか、神が私たちをあわれみ、祝福し、御顔を私たちの上に照り輝かせて下さるように。

それは、あなたの道が地の上に、あなたの実救いがすべての国々の間に知られるためです。

詩編 67:1,2

1 各地カレブの会の報告と予定

東京カレブの会 (御茶ノ水 OCC)

●5月27日の報告

被災した現地で奉仕をされてきた方々からの報告と、今後の奉仕のあり方などを分かち合い共に祈りました。報告者：北原慶一さん、杉山勉さん、青木正子さん、門谷 皖一さん、小林朋子さん、島田宏幸さん。「早期退職からの恵み」を島田宏幸さんが分かち合ってくださいました。

●6月24日の予定

畠山義則さんから「私のソフトランディング」、来間幸夫さんから「私の今、これからの夢」を分かち合ってくださいます。その後、参加者のみなさんと「今、日本人に伝えたい福音とは」について語り合います。

●東京カレブの会は、7、8月と夏休みに入ります。この間、秋以降のことや今後の活動についての検討会をスカイプで行います。ご意見をお寄せください。

宇都宮カレブの会 (宇都宮)

●6月11日

定年後起こりうる課題：「愛する人を亡くした時、こころの支えになったこと」について宮村さんの証。

●7月2日の予定： 赤城二郎さんによる「永遠を思う生き方」について。

宇大カレブの会

●7月30日： 「福音のためのインサイダー」の学び会

2 今月の祈りのテーマ

1) 星野隆三さんのために

「宝さがしの人生設計」という題で星野隆三さんがリタイア後のライフストーリーをクリスチャン新聞に掲載します。6月に第1回がはじまり、全部で10回掲載されます。星野さんが主の助けをいただきながらこのシリーズを完成できるように。そしてこれを読む人々が励まされ、リタイア後の人生設計の参考になりますように。

2) 東日本大震災のために

被災から3か月を過ぎると「心の幻滅期」に入るといわれています。我慢が限界に達し、不満が噴き出したり、やり場のない怒りにかられ、トラブルが起こりやすくなるそうです。これからの長い心のケアに、多くのキリスト者が用いられますように。

3) 仙台カレブの会の立ち上げのために

被災地でさまざまな人々の必要のために奉仕されている小川夫妻は、落ち着いた秋頃からカレブの会を立ち上げたいと願っています。お祈りください。

3 カレブ ストーリー

畠山義則

定年とソフトランディング



畠山夫妻

退職後、やりたいことは2つ。ひとつは書道、ひとつは宣教、と言え大げさですが、身近なところで証や伝道する。最近のことばで言えば「インサイダー」としてこの世で働く、ということです。

・・・

「自分で動き始める」、
「神さまに期待して待つ」
の兼ね合いを考えながら歩んでいます。



書道教室の案内

私は2006年末に宇都宮の小川兄よりカレブの会について知り、2007年1月に「新宿ルノアール」での例会に初めて参加しました。定年1年前のことでした。

会社は、その年11月に定年を迎えましたが、退職後どうするかまだ決められなかったことや、引継ぎなどあり1年間の継続勤務にしました。その1年でカレブの会に出席したり、いろいろ考え、祈り2008年11月で退職を決意しました。

退職後、やりたいことは2つ。ひとつは書道、もうひとつは神さまのためになにかする、もう少し言えば、宣教といえ大げさですが、身近なところで証や伝道をする。最近の言葉で言えば「インサイダー」としてこの世で働く、ということです。

その頃、私と同じ教会の方が「ハーベスト聖書塾」の入門コースを受けて、よい学びになったとお聞きし、私も受講することにしました。退職1ヶ月まえから学び開始となり、最高のタイミングでした。これは4ヶ月コースで翌年3月に修了しました。(旧新約聖書の概説。通信でレポート16枚、スクーリングが4回ありました。)その後、神学コース(2年、通信)があり、それもこの3月に修了できました。

私は牧師になることは、考えていません。しかし、宣教は聖書の知識とある程度の神学的な知識が必要だと考えています。ですから私にとって適切な学び(準備)ができたと思っています。

一方、書道の方ですが、2001年に師範の資格をとっていたので「書道教室」を始めることにしました。書道教室というのは、会社の仕事とは全く異なることだと思っていたのですが、その準備をしながら、会社でいろいろな仕事の経験が役立ち、塾の立ち上げなどすこしは相談しましたが、ほとんど自分だけで準備ができました。会社の仕事が、書道教室に役立つとは意外でした。役立ったのは、パソコンの知識もありますが、それ以上に仕事の計画から準備にいたることをかなり一人で進められたのは、会社の仕事で得たノウハウでした。

現実には、なかなか人は集まりません。それでも、土曜日に月3回、書道教室を開いて間もなく2年になります。時間はあるので今後は水曜日も開く予定でPRしています。

近所のおばさんが、開始直後に看板をみて「書道をやりたい」と道具を買って初めました。ある年齢以上になると社会的経験も豊富で、連絡などもきちんとくるので苦労せずに継続できていることは感謝です。人間関係もできて、先日の地震(3.11)の直後に心配だったので、様子をみに行きました。そのことが嬉しかったようで、信頼関係も深まったように思います。家の中に「聖句」の作品もあったりして、み言葉にもふれていると思います。

カレブの会の方々との交わりで、何人かの経験も知ることができました。具体的にながどう役立った、ということではなく、自分と同じように定年を迎え、考えながら歩んでいる様子に、はげまされた面はかなりのあります。参考になるものが、何もないのはつらいものです。

遅々とした歩みですが、「自分で動く」と「神さまに期待して待つ」の兼ね合いを考えながら歩んでいます。

* 畠山義則さんへのお問い合わせ: y-hatak@c3-net.ne.jp

4 カレブ ストーリー 2

「私の今・これからの夢」 来間幸夫さん

1. 今の私

現在、64 歳。明治生まれの母から、3 日坊主で何もかも続かず、途中で投げ出し辞めてしまうと常日頃から言われてきた私でした。7 人兄弟の末っ子で、だいぶ甘えて育ったのだと述懐します。

でも、2 つだけは、亡き両親に誇ってよいかも、18 歳から 64 歳まで、46 年間一人前に会社奉公が勤まったこと、以前は日本交通公社といいましたが、今は JTB という会社です。外見一流、中身三流会社と自称してます。当然紆余曲折がだいぶありましたが。

もうひとつは、同じく 18 歳から 64 歳まで、46 年間キリスト教会の礼拝出席を続けられたこと。この 2 つです。(海外国内添乗・出張時はのぞきますが。)

但し、多くの方々からのご支援・ご指導・愛の祈り等があったから守られてきたと思います。数多くの過ち・失敗・間違いがありました。罪深い小生は何度も主に守られ助けられてまいりました。最大の危機は、1200 千円の詐欺事件でした。店舗の責任者の立場から 1 ヶ月の停職処分となりました。また、添乗出張を 1 週間まえに先輩より変更を告げられ、私の代わりに東北に添乗出張された先輩が、バスと仙石線の列車事故で逝去されたこと。詳細は別の機会とさせていただきます。

2. これからの夢

JTB グループ社員 27000 名及びその他 OB・OG の仲間、またその関係者に対して、福音を発信したい。その窓口を大きく開きたいと願っています。

まだ構想の段階ですが、まず運営方針・活動内容・会員募集等を固めたい。定期的な聖書読書会の開催・夏季修養会・ハイキング・コンサート・音楽喫茶・クリスマスパーティ等を行事にくわえたい。相談コーナー・会員交流コーナー、教会紹介コーナー等も検討したい。

昭和 40 年代に御茶ノ水学生キリスト教会館（現在の OCC）で毎月開催していた旧 JTB 聖書研究会の仲間も、もうバラバラになり、それぞれの場で生活してますが、本企画を立上げた際には、ぜひ賛同をよびかけたい。(群馬県の牧師、主婦、等様々の仲間がいる)

現段階では、皆目机上プランですが、今ならできること、今からできること等を整理して、諸先輩のサジェッションを頂きながら、何とか始動してゆきたいと考えております。(最初は 2～3 人からでも始められたら嬉しいと考えています。)

* 来間幸夫さんへのお問い合わせ：yukio.kuruma@cyber.ocn.ne.jp



長年お世話になったこの会社（私の次女も勤務）に恩返し、感謝したく、後輩たちに、聖書研究を通したメンタルサポートしたいと願っております。当然聖書信仰にたった運営を考えております。具体的には、JTB 聖書に親しむ会・聖書読書会・聖書研究会等のホームページを立ち上げて、活動開始したいと考えております。

